

「学び続ける必要性」「本当の知識を身に着ける重要性」を教えてくれた、認定介護福祉士研修
社会福祉法人高生会 特別養護老人ホーム 明日に架ける橋
認定介護福祉士 東京都介護福祉士会
鈴木乃

医療・リハビリの知識を深め、
より良い他職種連携を実現し、
ご利用者の在宅復帰に貢献

認定介護福祉士(仮称)モデル研修(以下「モデル研修」)を受講させていただきました、鈴木乃(スズキ ノ)と申します。

今回は、私がモデル研修受講を通してどのように考え、どのように学びの場を移し、転職に至ったか、そして私を育ててくださった「認知介護福祉士」にどのような期待をしているかを書かせていただきたいと思います。

モデル研修のお話をいただいた頃の私は、介護老人保健施設の介護長として従事しており、日々どのような支援をすればご自宅での生活に復帰できるか。思い悩んでいる頃でした。また他職種とのコミュニケーションに関しても、「悩む」というほどのレベルではありませんでしたが、今思えば、自分の元々持っていたコミュニケーションスキルで乗り切っていただけで、「共通言語を用いて、明確にご利用者の『目標・支援内容』を示していたか。」と問われれば、「NO」だったと思います。しかし、研修のお陰様で、多くの医療・リハビリ知識を身に着けることができ、介護老人保健施設として大きな命題でもある「在宅復帰率の向上、そして在宅復帰強化型施設としての運営」という課題達成に微力ながら貢献することができました。

「介護のスペシャリスト」を目指し、
チームマネジメントを「学び」として
深めることの大切さに気づく

次に出てきた「悩み」は「スタッフ(後継者)育成」という課題でした。モデル研修では、医療・リハビリ・介護といった実践に直結する知識の他に、「組織論」や「チームマネジメント」という研修もあり、これに興味を持ち、「モデル研修できちんと『学ぶ』ことの大切さ」を知った私は、恐れ多くも専門職大学院に進み、福祉マネジメントを学ぶ決意を致しました。

そこでは、もちろん数多くの講義を受け、単位を取得し、論文を書き、何とか先生のご厚意によって無事卒業させていただいたわけですが、大学院での授業を通して、『住宅×介護』という問題に興味を抱くようになりました。興味を持った理由としては、介護老人保健施設で在宅復帰を支援する中で、「住環境が整っていない」「思ったよりも地域資源が少ない」そして、「だれもが古い、介護が必要となる可能性があり、それに向けて準備をしていない。」ということ、何となく『感覚』として感じていたものを、大学院の授業によって言語化できたからだと思います。

生活を支える介護福祉士の視点から
「日本の高齢化問題」を
多面的に考え、実践したい。

このように、モデル研修からはじまった私の「学び」「実践」「気づき」の連鎖によって、私は大学生から入り込んだ介護の仕事に別れを告げ、「何とか、元気なうちから住み続けられる住まいをつくりたい。」と考え、マンションデベロッパーの会社に転職をしてしまいました。現在では日々、マンションにどのような仕組みを作れば高齢者の方が元気に、そして医療や介護が必要となった場合でも安心して生活が続けることができるか。ということを考えて続けています。

本来、認定介護福祉士の大きな使命としては、「介護現場をマネジメントできる、ミドルマネジャーを育成する。」ことであると思っておりますが、私のように「認定介護福祉士研修」をきっかけとして、別の視点・業界から、今日日本が抱えている「高齢化問題」を考える介護福祉士がいても良いのでは

ないか。と考えています。

確かに、現在「介護人材不足」が大きな問題として取り上げられています。果たして介護職員がいさえすれば、解決するのでしょうか。私は「否」と思います。

介護福祉士は「介護現場のこと」だけでなく、もっと住宅・交通・買い物・金融等々、生活に必要不可欠なサービス業界においても、経験と知識を発揮し、「介護保険に頼らなくても生活を成り立たせる」工夫・仕組みづくりに携わる必要があるのではないのでしょうか。

そのためには、きちんと「学ぶ」ことが大切だと痛感しております。そのために認定介護福祉士という、本当の意味で「介護のスペシャリスト」を育成する機会は必要不可欠だと考えます。

今後、私に「学び続ける必要性」「本当の知識を身に着ける重要性」を教えてくださいました。認定介護福祉士という資格・カリキュラムが、ただの加算や昇給・昇格要件の議論で埋もれてしまうことがないよう切に願っています。

以上